



じりつ「自律と自立」

指 宿 高 等 学 校
進路指導部 第 2 号
発行日 R 5 . 5 . 2 3 (火)

一人ひとりの進路目標実現をめざして

「 自主・好学・向上 」

進路指導部では毎年、上記の校訓を基に基本方針と目標を設定し、年間計画を立て、各学年においては、以下の重点目標を掲げています。

1学年——基本的生活と学習習慣の定着

2学年——進路目標設定と学習習慣の確立

3学年——進路実現に向けた自学自習の確立

1年生は、指宿高校生としての生活習慣を確立し、中学の学習スタイルから脱却し、自主的な高校の学習スタイルに慣れ、日々実行するように努力しましょう。

2年生は、学習内容を「好きになる」ことで、学習習慣を確立させることが肝心です。また、学部学科研究等を行って進路目標を設定し、目標実現に向けて計画を立て、実行する努力をしましょう。

3年生は、受験生としての学習方法を再考すると同時に、進路実現に向けて最大限の努力をし、強い意志をもって学習に取り組みましょう。

わからないことがあったら、遠慮せずに担任や教科の先生、進路指導室を訪ねてください。

仮評定、評定平均値とは？

『評定平均値』とは、「高校1年生から高校3年生で出願する間に履修していた全科目の評定（5段階）を平均したもの」つまり、1年次から3年次のすべての科目の評定の合計（和）を科目数で割った値（小数点第2位を四捨五入）のことです。「評定」は、定期考査の成績や授業、課題の取り組みなどをもとに5段階で総合的に評価したもので、3学期の通知表に記載されています。現役生の場合、3年次の評定は1学期末に出される『仮評定』が使用され、これが出願時に提出する「調査書」に記載されます。この調査書は、一般選抜を含むすべての受験で必要な書類です。1学期中間考査は終了しましたが、まだ期末考査が残っています。中間考査がうまくいかなかった人も、期末考査に向けて学習を始め、結果を出せるよう頑張りましょう。

また、評定平均値は右の表のようにA～Eの5段階で成績概評として示されます。『総合型選抜』や『学校推薦型選抜』では、出願条件として、成績概評A以上を求める大学も少なくありません。学校長が特に優れていると認めた場合は④をつけることができますが、その④を条件とする大学もあります。評定は上記のとおり、定期考査の成績や授業、課題の取り組みなどがもともになります。言わば「毎日の積み重ね」の証です。適当にやってもよい課題、気を抜いてもよいテストなんて一つもないということを心に留め、毎日の授業に臨み、学習に励み、1回1回の考査を大事にしましょう。こうしてみると、改めて、1学期の大切さがわかってくるはずですよ。

A	4.3 ～ 5.0
B	3.5 ～ 4.2
C	2.7 ～ 3.4
D	1.9 ～ 2.6
E	～ 1.8

総合型選抜、学校推薦型選抜とは？

受験には、次のような選抜方法があります。

(1) 総合型選抜

- ① 学校長の推薦は基本的に不要。
- ② 受験生の意欲や入学後の目標を重視。
- ③ 書類審査、面接、小論文、プレゼンテーション等、受験先によってさまざまな形態がとられる。

(2) 学校推薦型選抜

- ① 学校長の推薦が必要。
「公募制」と「指定校制」に分かれる。
- ② 高校での実績や取り組みを重視。評定平均値や課外活動実績を出願条件とするケースが多い。
- ③ 小論文や面接が主。大学の場合、共通テストを課すこともある。

(3) 一般選抜

- ① 学力検査の得点がほぼ合否を決める。
- ② 入試の日程として、上記2つよりも後になる。
学力をつけるのは時間がかかるからです。

学力（いわゆる5教科）以外の特別な活動を評価してもらいたい人のために(1)や(2)があります。自分の学力に早々見切りをつけて、(1)や(2)で何とかしようという考えでは、どれもうまくいきません。うまくいくための最適解は、自主的に、学習が好きになるまで取り組み、粘り強く学力向上を目指すことであることは言うまでもありません。

【参考】「大学」「短大」「専門学校」の違いとは？

高校進学当初は専門学校志望だったのに3年になったら大学志望に変わった、短大志望だったのに専門学校志望に変わった、など、高校3年間でいろいろ考えて進路変更をするケースは珍しくありません。そこで、判断する上のヒントを、4つの疑問点をもとに説明します。参考にしてください。(スタディサプリ提供記事より作成)

(1) 「大学, 短大, 専門学校をそれぞれ一言で言うと？」

- ① 大学は、学術的・理論的な学問を学ぶとともに、幅広い教養を身につけるための教育を行う教育機関。
- ② 短期大学は、教養を身につけ、職業や実際の生活に役立つ能力の育成に力を入れる教育機関。
- ③ 専門学校は、特定職種の実務に必要な知識や技能を身につけられる、実践的な教育機関。

(2) 「大学・短大・専門学校の学費の違いは？」

トータルの学費は右表のとおりです。ただし、学費以外の諸費は含みません。私立大学医歯系が際立って高いです。

	学費平均
国公立大学(4年)	約243万円
私立大学文系(4年)	約398万円
私立大学理系(4年)	約542万円
私立大学医歯系(6年)	約2357万円
公立短大(2年)	約75万円
私立短大(2年)	約200万円
専門学校(2年の場合)	約220万円

(3) 「就職に、違いは見られますか？」

- ① 初任給(学歴によって、採用された際の最初の給料、給料の出発点)が異なります。
- ② 大学・短大の卒業後の進路は、学部・学科による違いも大きいが多様です。
… 大卒者はさまざまな企業や職種に応募することができ、選択肢が広いと言えます。
- ③ 専門学校はその学校が専門とする分野・業界の就職に強いのが特徴です。
… 特定業界の企業と強いパイプがある学校も多く、職種によっては大学よりも就職に有利なこともあります。

	平均初任給
大学	22万5400円
専門学校	20万6900円
短大・高専	19万9800円
高校	17万9700円

(4) 「結局のところ、何を決め手にすれば良いのでしょうか？」

- ① まだ将来やりたい仕事が決まっていないという人は、じっくり4年間学べて、在学中に将来を考える余裕があり、選択肢も豊富な大学が向いています。また、専門分野の学問を深く学び、専門分野以外にも幅広いことを学び、さらにはサークル活動やアルバイトなど、勉強以外のキャンパスライフを充実させたい人にも大学が向いています。
- ② できるだけ早く就職したいという人には2年で卒業できる短大・専門学校は有力な選択肢の一つです。ただし、資格を取得することが求められるなど、進級や卒業の要件は厳しいということは念頭に置くべきです。
- ③ 将来目指している仕事明確な人は、それに特化した教育を受けられる専門学校が向いています。
- ④ できるだけ学費を安く抑えたい人は、専門学校、短大は、分野や修業年限によって異なるが、選択肢の一つとなります。
- ⑤ 大学や専門学校、会社などの情報を見る際、表向きの表現や数字に踊らされることなく、オープンキャンパスなどを活用して実際に見る、聞くことを勧めます。

※ 「これだけは気をつけて欲しいということはありませんか？」

“易きに流れない”ことが受験の秘訣であることは、今も昔も変わりはありません。自分を追い込み、受験をする時点で、学力の最高到達点に立ってられるように、いい計画といい学習を心がけましょう。